

りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

◎注意事項をよくお読み下さい



○概況

- ◆ 今回の理事会は、金融政策の据え置きを決定
- ◆ ラガルド総裁の会見では、先行きの景気悪化への懸念を表明した上で、12月に開催されるECB会合において追加的な緩和措置を講じる予定であると表明。

✓ 10月29日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置き、パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)の規模も維持した。**

✓ またフォワードガイダンス（将来の金融政策方針）についても、「**インフレ目標の実現がしっかりと見通せるまで**」を据え置き。満期を迎えた債券の償還金に関して、長期間の再投資を継続。

✓ ラガルド総裁は理事会後の会見で、新型コロナの感染急拡大など背景に、**今後の景気のダウンサイドリスクについて懸念を表明。ECBのスタッフによる新たな景気見通しに基づき、12月の会合では1つの政策ツールだけでなく複合的にツールを使用し、追加的な緩和措置を講ずる予定と表明。**

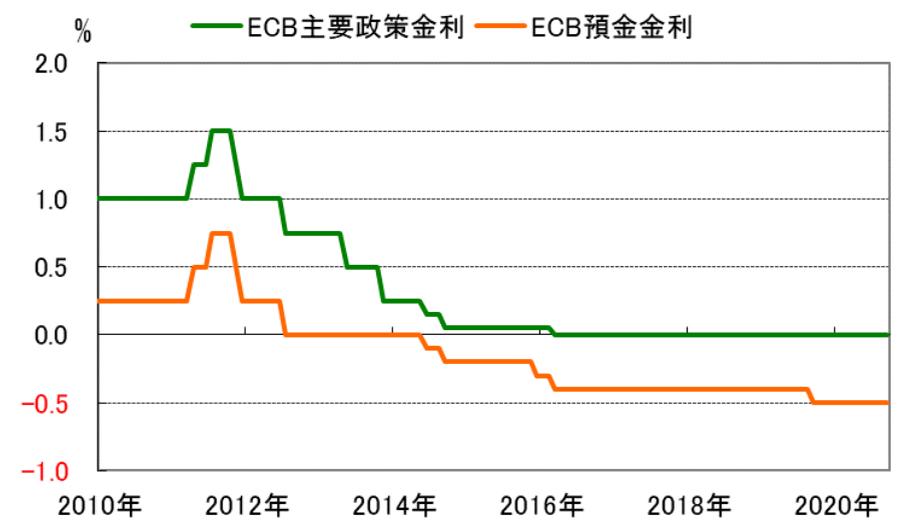
✓ 12月の会合で行われる追加緩和に関しては以下を予想。

- ・パンデミック緊急資産購入プログラム（PEPP）
 - 規模の拡大、購入及び再投資の期間の延長
- ・長期リファイナンスオペ3（TLTRO-Ⅲ）
 - 実施回数の追加

一方で、マイナス金利の深堀については、金融仲介機能を阻害するとの見方も強く、議論はされるものの実施は見送られるとみる。

✓ 足元でフランスやドイツが大規模なロックダウンの実施を予定しており、10-12月期の欧州経済は下振れする可能性が高い。12月会合での追加緩和はほぼ間違いなく行われる見通しから、昨日の相場ではユーロが売られた。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（9月時点）】

	2020年	2021年	2022年
実質GDP成長率	▲8.7	+5.2	+3.3
6月時点の見通し	▲8.7	+5.2	+3.3
HICP(消費者物価)	+0.3	+0.8	+1.3
6月時点の見通し	+0.3	+0.8	+1.3

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。